

ボランティア活動： 責任ある支援を行うには？

多くの方が救援活動の一部を担っており、何か役に立ちたいと東北地方へボランティアに行こうと思っている人もたくさんいます。しかしながら準備が十分でなかったり、苦しんでいる人たちに対してどのように対応し

ケンジは今週末、自分にも援助ができないだろうかと、北に向かって車を走らせていた。彼はどのような形で援助を行うかはっきりわかっていない。彼はあるボランティア組織に登録し、すぐに家屋の泥をかき出す作業の手伝いに送られた。彼が泥出し作業を行う家の持ち主である年配の女性は涙ぐんで見えた。「心配しなくても大丈夫ですよ」と彼は言った。「お気持ちはわかります。家はまたすぐに立ちますよ」途中彼はある避難所に立ち寄り、子供たちにアメを配り始め、子供たちを写真におさめた。彼は作業を開始する際、自分が見た破滅的な光景を写真にとり、自分の家族や友達が現地がどのような状態かがわかるように、自分のフェイスブックに貼付けて、聞いた話を添えた。彼はその一週間ずっと一生懸命に働き、十分な睡眠もとらなかつた。毎日目にする光景に彼もだんだんに悲しみがつのり、タバコを吸う量もいつもの2倍に増えた。

ていいのかわからないこともあります。何を言うべきか、何を言ったらいけないのか自問したり、被災地にて苦しみを感ぜたり傷つくこともあるかもしれません。また、個人情報程に関する問題を見落とし、被災者の写真を撮ったり、個人的でプライベートな話を他者に伝えてしまうことがあるかもしれません。準備をすること、援助の方法を知ること、自分や他者を傷つけないことが重要です。

ケンジは違った方法で支援するべきだったのでしょうか？

ボランティアとして考えておくべきことはたくさんあります。以下は一般的な「すべきこと」と「してはならないこと」です。

すべきこと： 備える <ul style="list-style-type: none"> ✓ 現地の状況を把握し、既存の救援活動に参加する ✓ 自分の役割と、その役割の限界を把握する 	してはならないこと... <ul style="list-style-type: none"> ✗ 誰が何をしているのか、自分はどの集団や組織でボランティア活動を行うのかを知らないまま、被災地に入る ✗ 自分に期待されていること（自分がすべきこと、およびすべきでないこと）が把握できていない
すべきこと： プライバシーを保護し秘密を守る <ul style="list-style-type: none"> ✓ プライバシーを尊重する ✓ 被災者の方々から伺った話は口外しない 	してはならないこと... <ul style="list-style-type: none"> ✗ 被災者の方々の私的な居住空間（避難所内のホールや区画など）に、その方々の許可なく立ち入る。 ✗ 被災者の方々の写真を撮る（写真を撮るように言われていない場合） ✗ 被災者の方々の話を公の場で伝える（例：ブログ、フェイスブック、インターネット、メディアで紹介したり、他人に話す）
すべきこと： 被災者の方々の尊厳を保ち尊敬をもって接する <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自己紹介をする（例：自分の名前、自分のボランティア組織名、自分の任務を伝える） ✓ 一方的でない協力的な行動を維持する ✓ 被災者の方々と尊敬を持って接し、その方々の文化や社会規範に従って接する。 ✓ 被災者の方々が自分自身で決定する権利を尊重する ✓ 親御さんたちの、保護者としての役目を尊重する 	してはならないこと... <ul style="list-style-type: none"> ✗ 被災者の方々に自分が何者であるかを伝えずに、行動を開始したり、話しかけたりする ✗ その人を、その行動や感情から判断する（たとえば「不安に思わなくていいですよ」などと言わないこと）。 ✗ その方々の経験した事柄や経験しなかった事柄から判断しないこと、その方々の感じ方から判断しないこと。（たとえば、「そんなふうにするべきではないですよ」「生き残ったことを幸せだと思えるべきですよ」など、言わないこと。） ✗ その人の文化、年齢、性別から判断して不適切と思われる行いをする（子供であっても不適切な場合は手を触れないこと。その人が自分と同じ宗教的信念を持っていると思込まないこと）

	<ul style="list-style-type: none"> ✖ 被災者の方々に援助を強要しないこと。差し出がましい、または押し付けがましくならないこと。 ✖ 被災者の方々が（ご自身で）できるにも関わらず、その方々のために決定を下したりその方々に代わって話をしたりする。 ✖ 保護者の方の許可を得ずに子供たちに近づいたり触れたりする、保護者の方の知らないところで子供たちに物品を与える（できれば子供たちへの物品は親御さんに渡してあげるほうがよい、そうすることで親御さんの保護者としての役割が強まる）
すべきこと： 正確な情報を伝える	してはならないこと...
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 正確な情報を提供する ✓ 自分の技能や知識に正直である 	<ul style="list-style-type: none"> ✖ 誤った情報を与える ✖ 知らないことについて作り話をする ✖ 偽りの約束や誤った元気付けをする（例：「あなたの家はすぐに修理されますよ」） ✖ 自分の技能を誇張する。
すべきこと： 被災者の方々の自助努力をサポートする	してはならないこと...
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 被災者の方々から情報および助言を求める ✓ 被災者の方々をできるだけ交えて救援活動および復旧作業を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ✖ 被災者の方々のほしいもの、必要としているものはわかっていると思い込む ✖ すべて自分だけで行う（被災者の方々が自分自身の手でできることまで手を出すことは、その方々の権限を奪ってしまうおそれがある）
すべきこと： 耳を傾ける	してはならないこと...
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 協力的な方法で話を聞くことができる（うなずきながら聞く。被災者の方々が話してくれたことに対して質問しない。自分の勝手な解釈を加えずに、受け止めて復唱する。） ✓ 辛抱強く冷静である ✓ その人の強みと自助努力の方法を認める 	<ul style="list-style-type: none"> ✖ 被災者の方々に話を聞かせてくれと強要しないこと。 ✖ 被災者の方々に起こった出来事について詳細に聞かないこと。（話そうとしてくれている場合は、ただ耳を傾けること） ✖ 被災者の方々に他の方の話をしないこと。 ✖ 腹を立てたり動揺したりする ✖ すべての人の問題を自分が解決しなければならないと思ったり行動したりしないこと。 ✖ その人の強みや、自分のことは自分でできるという感覚を奪わないこと。
すべきこと： 積極的対処方法を利用し、他者にも積極的対処を促す	してはならないこと...
<ul style="list-style-type: none"> ✓ セルフケアを上手に実施し、極度の疲労を防止する ✓ 十分な休息をとる。 ✓ できるだけ規則正しく食事をし、水分をとる。 ✓ 家族や友達と話をしたり時間を過ごす。 ✓ 信頼のおける人と問題点について議論する。 ✓ 自分がリラックスするような行動を取る（散歩する、歌を歌う、祈る、遊ぶ）。 ✓ 危機状況において他者を助け、コミュニティ活動に参加するための安全な方法を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ✖ 働きすぎたために、疲れ果てて苛ら立ち、不安になってしまい、効果的かつ愛情を持って他者を援助できていない ✖ 薬を服用する、喫煙する、多量のアルコールを飲む。 ✖ 休憩や息抜きをせずに始終働く。 ✖ 友達や愛する人たちから離れている。 ✖ 自分自身の基本的な衛生状態維持を怠る。 ✖ 苛ら立ちや怒りを持って行動する。

さらに詳しく知るには？

International Medical Corps（国際医療隊）と東京英語いのちの電話（TELL）は協働して、被災された方々を支援している様々な組織（被災地で働いている国際的および地方の組織・スタッフ、および TELL やいのちの電話の相談員、その他団体のスタッフ）に対し、サイコロジカルファーストエイド（PFA）を通して、責任ある救援活動に関する研修を提供しています。

問合せ： TELL 災害対策コーディネーター 大滝涼子 03-4550-1191, telldisasterrelief@hotmail.com